

北海道別海高等学校の行動計画（グローバル・アグリハイスクール宣言 PartⅡ）

全国の農業高校の行動計画		学校において令和6年度に重点化する取組及び具体的方策			
「5つのミッション」	「8の行動計画」	行動計画の中で重点化する取組	実現状況	課題	評価
Ⅰ グローバル教育で人材を育てる学校	1 「生徒一人ひとりを一層輝かせ成長させる教育」を行います。	(1)授業や行事等のねらい、目標の見直しをおこない、目標達成に向けて自ら考え行動できる態度を育成する。 (2)地域のニーズに合った生徒の育成し、地域で活躍できる人材を育成する。	(1)行事や授業のねらいを見直すことができそれに伴い、ワークシートや実習日誌などの項目を見直し、運用することができた。今年度からのものであるため、改善点を洗い出し、次年度に活かしていく。 (2)学校運営協議会の農場部会の中で、どのような生徒を求めているのか、どのような力を身につけて欲しいなど聞くことができた。それをもとに、次年度の行事や授業計画を立案していく。	(1)ねらいや目標など全ての教員が共通認識を持って、生徒指導できていない場面が多い。また、初任者層の教員が多いため、先輩教員からの助言や教員の資質向上のための方策を考えて実施していく必要がある。	3
	2 「世界と日本をつなぐグローバル教育」を行います。	(1)海外視察研修をととして、国際的な視野を醸成し、海外の農業と国内農業の違いを理解させるとともに、それを生かした酪農経営を推進できる学習を実施する。	(1)今年度は酪農経営科2名、農業特別養育科2名が海外研修に参加した。今後、海外研修報告会の実施と冊子の作成をしていく。	(1)参加する生徒にとってはとても有意義なものであるため、海外研修の事前事後指導の充実を図る必要がある。また、帰国後すぐに記憶が新しい内に参加していない生徒に対して、報告する場面を設定し生徒全員が学ぶことができる機会を設ける必要がある。	3
Ⅱ 地域社会・産業に寄与する学校	3 「地域農業の生産を支える教育」を行います。	(1)飼料高騰を受け、新たな飼料調製技術の開発に取り組む。 (2)地域農業や地域特性についての学習をととして、地域活性化に必要な事柄を探究し、関係機関等との連携を図り、実施していく。	(1)道東の気候を生かした飼料調製方法についての研究に取り組むことができた。また、みどり戦略学生チャレンジにも参加し、研究内容を発表することができた。 (2)農政事務所の出前授業や専攻科との合同授業をととして地域農業や地域特性についての学習はできた。	(1)連携や出前授業をやつて終わることが多いため、その内容を踏まえ、授業や実習、プロジェクト活動等に活かしていくための工夫が必要である。また、深い学びの実現に向け取り組む必要がある。	3
	4 「地域の農業関連産業や6次産業化に寄与する教育」を行います。	(1)プロジェクト学習の取組を工夫・充実させ、地域農業の課題解決に向けた学習に取り組む。 (2)保幼小中学校との連携事業を行い、食農教育の充実を図るとともに、将来の地域産業を担う人材を育成する。	(1)地域農業の課題に向けた学習に取り組むことはできたが、取組内容の充実は乏しいものとなった。 (2)幼小中学校との連携事業を実施することができた。また例年とは違う内容に変え実施することもできた。	(1)プロジェクト活動については、生徒はもとより、教員の指導力・資質の向上を図る必要がある。そのため、課題研究を2班合同でおこない、全農業教員で専攻班を見る体制に変更する計画を立てている。 (2)今後も継続して実施していくとともに、より一層充実した内容に深化させていく工夫をする。	2
Ⅲ 地球環境を守り創造する学校	5 「地球環境を守り、創造する教育」を行います。	(1)3年間をととして植樹事業を実施し、国土保全や環境創造に関する態度を造成する。 (2)プロジェクト学習をととして、地域の環境に関する課題解決に向けた教育を推進する。	(1)北海道開発局と連携し、全学年で苗木の植種から鉢上げ、植樹活動を一貫して実施することができた。また、水大賞への応募もすることができた。 (2)大型のバイオガスプラントから出る消化液の活用方法や道東の気候を利用した子実用ハウモロコシの感温調製方法に関わるプロジェクト学習を実施することができた。	(1)事業を継続して実施していくとともに、内容の充実を図る必要がある。 (2)プロジェクト内容の充実を図るとともに、地域への普及活動を実施していくための工夫が必要である。	3
	6 「地域資源を活用し、地域振興の拠点となる教育」を行います。	(1)地域資源を活用した授業や実習を展開させ、地域交流を図り、将来地域産業を担う人材の育成を図る。	(1)別海町グリーンツーリズムネットワークとの連携を充実させ、フットパスのガイド養成や整備、歴史学習会に取り組むことができた。また、高校生ガイドリーダーを次世代に繋ぐことができた。	(1)高校生ガイドリーダーを途切れることなく、次世代へと繋ぎしていくため方法を考えていく。また、ガイドの質向上のため、連携をさらに充実させていく必要がある。	3
Ⅳ 地域交流の拠点となる学校	7 「Society5.0の時代に応じた教育」を行います。	(1)Society5.0とSDGsとの関係やスマート農業について理解を深め、地域農業を担う人材の育成を図る。	(1)授業の中で、スマート農業等に触れる内容を実施することができた。	(1)授業や実習において、スマート農業等の内容を充実させるため、教員に対する研修参加を促す。 (2)地域の農業機械店との連携を図り、外部を活用した出前授業や実習を実施するための計画を年度内に立て、次年度は実施していく必要がある。	2
V 地域防災を推進する学校	8 「地域防災を推進する教育」を行います。	(1)地域の自然災害や安全に関する教育を推進する。	(1)実習において、安全教育の充実を図ることができた。	(1)安全教育を継続して行っていくとともに、マンネリ化しない工夫が必要である。また、地域の自然災害の内容に触れた座学を実施していく必要がある。	2